

平成31年度

学 生 募 集 要 項

【特別入試】

《推 薦 入 試》

《帰国子女特別入試》

《私費外国人留学生特別入試》



PCサイト <http://www.usp.ac.jp/>
携帯サイト <http://daigakujc.jp/usp/>



携帯電話サイトとインターネットによる入試情報について

①携帯電話サイトによる案内

- 案内内容 大学概要、入試案内、出願状況（推薦入試のみ）、合格情報（推薦入試のみ）
アクセス情報など
- アドレス <http://daigakujc.jp/usp/>
(上記URLはPCからでも読み取れます。)



← QRコード対応機種の携帯電話は、
左の画像を読み取ると便利です。

②インターネットによる案内

- 案内内容 大学概要、学部・学科等の内容、入試案内、アクセス情報など
- ホームページのアドレス <http://www.usp.ac.jp/>

個人情報の取り扱いについて

本学が保有する個人情報は、「滋賀県個人情報保護条例」ならびに「公立大学法人滋賀県立大学の保有する個人情報の保護等に関する規程」等により関係法令を遵守し、出願時に大学が取得した氏名、住所その他の個人情報は、下記の目的以外には利用いたしません。

- ①入学者選抜（出願処理、受験票発送、試験実施、成績処理等）、合格通知、入学手続案内、入学者選抜方法の調査・研究等の入試事務および付随する業務
- ②合格者のみ入学に伴う教務事務（学籍、修学指導等）、学生支援事務（健康管理、奨学金申請、後援会等）、授業料等の収納事務および付随する業務

また、上記事務処理の一部を外部に委託し、個人情報を受託業者に提供した場合は、関係法令等により、個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止、その他個人情報の適切な管理に必要な措置に万全を期します。

[注意]

- ・問い合わせがあっても、本人以外には志願者の氏名・住所その他の個人情報は一切お知らせできません。
- ・駅、バス停、大学周辺で可否連絡・下宿案内等と称して個人情報を収集していることがありますが、本学ではそのような行為は一切行っていないので注意してください。

目 次

大学の目標・教育の特色	1
I 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）	2
II 入学定員と募集人員	12
III 推薦入試	13
IV 帰国子女特別入試	25
V 私費外国人留学生特別入試	32
VI 入学手続、初年度納付金等	36
VII 出願書類の記入例および記入上の注意	39

添付書類（以下の各書類が同封してあることを確認してください。）

※C, D, E, F, H, I, Kの各書類は、推薦入試・帰国子女・私費外国人留学生特別入試共用です。

A1 票	入学志願票（原 票）	《推薦入試用》
A2 票	入学志願票（原票）	《帰国子女特別入試用》
	[裏面] 身上調書	
A2-2 票	大学入試センター試験受験科目申告書	《帰国子女特別入試用》
A3 票	入学志願票（原票）	《私費外国人留学生特別入試用》
	[裏面] 身上調書	
B 票	入学志願票（電算処理票）	《推薦入試用》
C 票	住所票	
D 票	受験票	
E 票	写真票	
F 票	入学検定料振込確認票	
G 票	推薦書	《推薦入試用》
H 票	受験票返送用封筒	
I 票	出願書類提出用封筒	
J1 票	住民票記載事項証明（願）書（本人用）	《推薦入試用》
J2 票	住民票記載事項証明（願）書（保護者用）	《推薦入試用》
K 票	入学検定料振込用紙等	

大 学 の 目 標

滋賀県立大学は、滋賀県における学術の中心として、未来を志向した高度な学芸と、悠久の歴史や豊かな自然、風土に培われた文化を深く教授研究するとともに、新しい時代を切り拓く広い視野と豊かな創造力、先進的な知識、技術を有する有為の人材を養成することを目的としています。

また、開かれた大学として、県民の知的欲求に応える生涯学習の機会の提供や地域環境の保全、学術文化の振興、産業の発展、人間の健康など、滋賀県の持続的発展の原動力として大きく寄与することを使命としています。

この大学設置の基本理念を踏まえ、次の基本的な目標を定めています。

- ・「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」という開学当初からのモットーをより一層発展させ、琵琶湖を抱く滋賀ならではの教育研究をさらに進めます。
- ・時代の流れを先取りし、先駆的・戦略的なものの見方ができる、進取の気性に富む人が育つ大学づくりを進めます。
- ・グローバル化の進展等による国際化の諸問題に対応する新しい時代に向けたモデルとなる大学を目指します。

教 育 の 特 色

(1) 4年一貫教育

より確かな知識と技術の修得を目指し、各学部別にその目的に従った個性的な教育を系統的に実施するため、専門科目を4年間にわたって一貫して編成する完全な4年一貫教育を実施します。これにより、それぞれの学部に入學した学生は、1年次から専門分野の講義を受けることができます。

(2) 目標を明確にした基礎教育の重視

全学部に通じる全学共通基礎科目、学部の専門的な共通基礎科目、および学科の基礎科目が、すべて各学部・学科の教育目標に合わせて選ばれており、最も適切な年次に学ぶことができます。

(3) 人間を深く見つめる「人間学」

全学共通科目の中で、人間・環境・社会・文化を知る「人間学」が4年間いつでも履修できます。目まぐるしく変化する現代社会の中で、人間と環境、社会、文化を深く理解し、人間というものを深く見つめ、生き方を探るのが「人間学」です。人間探求学を1年次の必修とし、入門・概説ではなく、現実の問題に立論して、ひとつの見解に達するまでのプロセスを追求する様々な科目を選択科目としています。

(4) 変革力を身につける「地域教育」

地域と大学が人材を共育し、地域を共創する自立圏域「びわ湖ナレッジ・コモンズ」の形成をめざし、地域課題に対する教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。

地域教育では、全学共通科目の地域基礎科目、各学部・学科の地域志向専門科目、全学部生が選択可能な地域学副専攻を通して地域課題とその解決法について体系的に学び、コミュニケーション力、構想力および実践力を兼ね備えた変革力を身につけることを目指します。

(5) 少人数による対話・討論型の授業

教員と学生の日常的な触れ合いを重視するという基本方針のもとに、フィールドワークや実験・実習などにおいて、少人数による対話・討論型の授業が多くあります。

例えば、1年次の必修科目である「人間探求学」は、学科ごとに5、6名のグループに分け、大学で学ぶために必要な能力を養うことをねらいとし、教育の原点である人間と人間のふれあいの機会を提供しています。

(6) 他学部・他学科の履修

学生の多様な学習意欲に応えるために、学部・学科の多様性を生かし、他学部、他学科で修得した単位を卒業単位として認定し、より幅の広い人材の育成を目指します。

I 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）

全学の受入方針

滋賀県立大学は、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の4学部からなり、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「環境」と「人間」をキーワードにした「人が育つ」大学として、平成7年に設立されました。琵琶湖に隣接し、緑豊かな自然環境のなかで、近江の歴史や多様な文化・産業を背景に、「地域に根ざし、地域に学ぶ」実践的教育が展開されています。

本学の学生は各学部・学科が掲げている人材養成の目標に向かって、体系的に配置された授業科目を段階的に学びながら自己形成に努めます。この教育目標を達成するために、必要な基礎学力を基盤にして、積極的に学び、自らの将来像の実現を目指そうとする意欲的な学生を求めます。そのため、本学では次の3種類の入学試験を行っています。

- (1) 一般入試・前期日程（センター試験と個別学力試験を併用した、幅広い基礎学力についての選抜試験）
- (2) 一般入試・後期日程（センター試験と学科の専門を反映させた個別試験を併用した、専門分野に関わる学力、適性、学習意欲についての選抜試験）
- (3) 特別入試（推薦入試 A、B、C）（総合問題、実技試験あるいはセンター試験と面接を併用した、学力および適性や学習意欲についての選抜試験）

さらに、特別入試（帰国子女特別入試、私費外国人留学生特別入試）を実施し、多様な学生の受け入れに努めています。

環境科学部

環境生態学科

環境生態学科では、自然科学に関する専門知識と技術を基盤として、自然と人間が複雑に関わりあう環境での問題を発見し、その科学的解決法を主体的かつ積極的に提案できる人材を育成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 自然環境に対する知的好奇心や探究心を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲を有する人（関心・意欲）
- ② 自然科学に関する高度な専門知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有する人（知識・理解）
- ③ 高い洞察力を身につけるために必要な基礎力をもつ人（思考力・判断力）
- ④ なお、本学科はフィールドサイエンスを主体として、教育活動を行っています。そのため、厳しい野外調査を途中で投げ出さず、最後までやりきるための努力を惜しまない人、すなわち、たくましい人間性を持ち、柔軟な思考ができる学生を求めます。

2. 入学者選抜の基本方針

環境生態学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重

視します。さらに高校教育や日常生活によって培われた論理的思考力・判断力あるいは自然科学への関心・意欲と本学科への適応性について評価します。このため、一般入試（前期日程、後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、個別面接の中から2つを組み合わせて課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A、C）では、自然科学を学ぶ上で必要な基礎学力および洞察力に加え、本学科への適応性や学習意欲を、求める学生像①、④に基づいて評価します。このため、総合問題（英語、理系総合問題、文系総合問題）に加え、個別面接を課します。

環境政策・計画学科

環境政策・計画学科では、環境と調和した社会を形成するために、社会を形成している企業、政府、市民の行動を環境調和型に変革していく人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 人間社会と自然環境の広い範囲にわたって関心を有する人（興味・関心・意欲）
- ② 環境政策や環境計画を学ぶ上で必要な国語・数学・英語・理科・地歴公民の基礎学力を有する人（知識・理解）
- ③ 見出された問題の解決に向けて論理的に思考できる基礎力を有する人（思考力・判断力）

2. 入学者選抜の基本方針

環境政策・計画学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力を重視します。さらに、高校教育や日常生活によって培われた、興味・関心・意欲についても評価します。このため、一般入試（前期日程と後期日程）と特別入試を実施します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A、C）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、興味・関心・意欲を評価します。このため、大学入試センター試験（国語・数学・英語・理科・地歴公民）と個別面接を課します。

環境建築デザイン学科

環境建築デザイン学科では、持続可能な社会の建設のために、建築学を基礎に、建築を巡る環境や地域が抱える問題を発見、理解し、解決する能力を有する人材を育成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 高度な専門知識を身につけるために必要な数学、理科、英語、国語、地理歴史・公民の基礎学力を有する人（知識・理解）

- ② 環境建築デザインや地域社会の創造に強い関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲を持つ人（関心・意欲）
- ③ 都市、地域、景観、防災、資源、エネルギー、世界規模の問題まで広範な関心を持ち、人と協調する力を有する人（協働性）
- ④ 見出された問題に対して論理的に思考し、その解決に向けて創造する基礎力を有する人（思考力・判断力・表現力）

2. 入学者選抜の基本方針

環境建築デザイン学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高校教育や日常生活によって培われた関心・意欲、協働性、思考力・判断力・表現力についても評価します。このため、一般入試（前期課程・後期課程）と特別入試（推薦入試 A、C）を実施し、それぞれ大学入試センター試験、個別学力試験、造形実技試験、個別面接の中から複合的に課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、関心・意欲、協働性を評価します。このため大学入試センター試験（国語・数学・英語・理科・地歴公民）と個別面接を課します。

特別入試（推薦入試 C）では、関心・意欲、協働性、思考力・表現力を総合的に評価します。このため個別面接（プレゼンテーションを含む）を課します。

生物資源管理学科

生物資源管理学科では、動植物の生産や病害虫からの保護、土壌・水資源の保全と活用、生物機能を利用した物質生産や環境改善など、農林水産業に関わる生物資源の管理と活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 高度な専門的知識を身につけるために必要な理科、数学、外国語等の基礎学力を有する人（知識・理解）
- ② 農林水産業や地域環境に強い関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲を持つ人（関心・意欲）
- ③ 地域社会から世界規模の問題まで広範な関心を持ち、人と協力して問題を解決する力を有する人（協働性）
- ④ 見出された問題の解決に向けて論理的に思考できる基礎力を有する人（思考力・判断力）

2. 入学者選抜の基本方針

生物資源管理学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高校教育や日常生活によって培われた思考力・判断力、関心・意欲、協働性についても評価します。このため、一般入試（前期日程、後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ大学入試センター試験、個別学力試験、面接の中から2つを組み合わせる課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、関心・意欲、思考力・判断力、協働性を評価します。このため、総合問題（英語、理系総合問題、文系総合問題）に加え、面接を課します。

工 学 部

材料科学科

材料科学科は、環境と調和した持続可能な人間社会の構築を目指し、科学技術に裏打ちされた材料の進歩に貢献できる、研究者・技術者の養成を目的としています。そのため本学科では、学問の基礎の理解と実験や演習などの実践を重視し、無機から有機までの幅広い物質、新エネルギー材料や環境材料などの様々な用途について、基礎から応用にわたる多面的な教育・研究を行い、“モノづくり”や新材料に興味を持ち、自己の能力向上に努める人材の育成を行います。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 無機から有機までの幅広い物質、新エネルギー材料や環境材料などの様々な領域に強い関心と学びに対する意欲があり、自らの明確な目標設定を継続して行える素養のある人（関心・意欲）
- ② 数学、理科（物理と化学）、国語、英語、地理歴史・公民の科目に関して、材料に関する研究者・技術者となるための専門的内容と判断力の修得に必要な高等学校理系卒業レベルの学力を有する人（知識・理解）
- ③ 今までに得た知識・教養・経験を組み合わせ考える力（応用力）を持ち、また材料開発や新たな現象を類推する力（創造力）の素地があり、科学に対する思考を深めて適切に判断できる能力を伸ばす素養を有する人（思考力・判断力）
- ④ 問題解決のために、積極的に討議の場に参加でき、与えられた課題に対して論理的に相手を説得でき、リーダーシップを発揮する素養を有する人（積極性・論理的説得力・リーダーシップ力）
- ⑤ 他の人と協働して課題解決に向けた取り組みができ、得られた成果あるいは自分の考えについて自らの言葉で的確に表現し、相手に伝える能力を伸ばす素養を有する人（協働力・表現力）

2. 入学者選抜の基本方針

材料科学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、調査書も参考にしながら高等学校教育や日常生活によって培われた関心・意欲・思考力・判断力・積極性・論理的説得力・協働力・リーダーシップ力・表現力についても評価します。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試（推薦入試 A、B）を実施し、それぞれ大学入試センター試験、個別学力試験、グループ討論、個別面接（口頭試問含む）のいくつかを組み合わせた入学試験を課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A、B）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、関心・意欲、思考力・

判断力・表現力を評価します。このため、大学入試センター試験と個別面接を課します。大学入試センター試験では、特別入試（推薦入試 A）で国語・数学・英語・理科（物理、化学）・地歴公民を、特別入試（推薦入試 B）で国語・数学・英語・理科（物理、化学）をそれぞれ課します。個別面接については調査書も含めて評価します。

機械システム工学科

機械システム工学科は、機械工学の基礎とシステムのセンスを備え、高機能な機械を設計・開発でき、柔軟な発想能力の備わった技術者の養成を目指しています。そのために、機械工学の基幹となる熱力学、流体力学、材料力学、機械力学に、制御工学、情報処理基礎、メカトロニクス、生産工学などの幅広い科目を加え、さらに多くの演習や実験を取り入れたカリキュラムによって、基礎から応用にわたる多面的な教育を行います。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 機械とそのシステム、力学、ものづくり、ならびにこれらと自然環境、社会、人間との関わりに強い関心を持ち、自己の能力向上に対する意欲を持つ人（関心・意欲）
- ② 基礎学力として、高等学校で履修する数学、理科（特に、物理と化学）、国語、英語、地歴公民の各科目において、高等学校理系卒業レベルの学力を備える人（知識・理解）
- ③ 今までに得た知識・教養・経験を組合せて適切に思考・判断でき、その結果や自分の考えを相手に伝えることができる素養を有する人（思考力・判断力・表現力）

2. 入学者選抜の基本方針

機械システム工学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、確かな基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高等学校教育や日常生活によって培われた思考力・判断力・表現力、関心・意欲についても評価します。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試（推薦入試 A、B）を実施し、それぞれ大学入試センター試験と個別学力試験、大学入試センター試験と個別面接を課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A、B）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、関心・意欲、思考力・判断力・表現力を評価します。このため、大学入試センター試験と個別面接を課します。まず、大学入試センター試験では、特別入試（推薦入試 A）で国語・数学・英語・理科（物理、化学）・地歴公民を、特別入試（推薦入試 B）で国語・数学・英語・理科（物理、化学）をそれぞれ課します。また、個別面接については調査書も含めて適性もみながら評価します。

電子システム工学科

電子システム工学科は、電気・電子・情報工学分野で基礎から応用まで幅広い知識と高度な技術をもつとともに、豊かな人間性とコミュニケーション力および問題解決力を身につけた、地域はもとより世界に通用する創造力豊かで自律した技術者の育成を目指しています。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 国語、地理歴史・公民、数学、理科（物理と化学）、英語の科目に関して、電気・電子・情報工学分野の技術者に要求される専門知識・能力および教養を身につけるために必要となる、高等学校理系卒業レベルの基礎学力を有する人（知識・理解）
- ② 電気・電子・情報工学分野の課題を設定・遂行・解決する能力を身につけるために必要となる、高等学校理系科目（数学と物理）の思考力を有する人（思考力・判断力）
- ③ 自律した技術者に求められる情報伝達・発信力と協働力を身につけるために必要となる、基礎的なコミュニケーション力を有する人（協働性）
- ④ 電気・電子・情報工学分野に夢や魅力を感じ、基礎から応用まで幅広い素養を身につけて積極的に活躍していきたい人、知的好奇心をもって常に新しいことに挑戦し、専門分野を通して積極的に社会に貢献していきたい人（関心・意欲）

2. 入学者選抜の基本方針

電子システム工学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高等学校教育や日常生活で培われた「思考力・判断力」と「協働性、関心・意欲」のどちらかについても評価します。このため、一般入試（前期日程、後期日程）と特別入試（推薦入試 A、B）を実施し、大学入試センター試験および個別学力試験と個別面接のどちらかを組み合わせた試験を課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A、B）では、高等学校理系卒業レベルの確かな基礎学力（知識・理解）と協働性、関心・意欲を評価します。このため、高等学校等での学習内容にも考慮しながら、大学入試センター試験〔国語・数学・英語・理科（物理、化学）・地歴公民〕と個別面接を課します。個別面接では調査書も含めて適性も勘案して評価します。

人間文化学部

地域文化学科

地域文化学科では、日本、特に近江の歴史・文化・社会、およびアジアとの交流に強い関心を持ちながら自ら行動し、社会貢献の一環として学んだことを地域に還元し、科学的な目で地域を見つめてこれからの地域のありかたを探求する意欲と、問題解決能力を持ち、独創的な発想ができる人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 地域社会の過去と現在の諸問題を学ぶために必要な基礎学力を有する人（知識・理解）
- ② 地域社会の諸問題について、学んだことをふまえて論理的に考え、判断する基礎力のある人（思考力・判断力）
- ③ 歴史・文化・社会に強い関心を持ち、自ら学ぶ強い意欲のある人（関心・意欲）
- ④ ローカルな問題からグローバルな問題まで広い関心を持ち、自らの考えを相手に伝え、多様な人々と交流できる人（表現力・協働性）

2. 入学者選抜の基本方針

地域文化学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高校教育や日常生活によって培われた思考力・判断力、関心・意欲、表現力、協働性についても評価します。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試（推薦入試）を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、面接を組み合わせで課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A、C）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、関心・意欲・協働性を評価します。このため、総合問題（英語、文系総合問題）と面接を課します。

生活デザイン学科

生活デザイン学科では、人間に身近な生活環境の問題を発見し、その解決策を考え、社会に活躍できる人の育成を目指しています。この教育理念に沿って、人間に身近な生活環境としての住居、道具、服飾のデザインの理論と実践を学び、身近な生活環境を観察・分析して問題を発見し、その解決策を造形的・論理的に表現できる能力を身につけ、地域はもとより広く社会の発展に貢献できる人材の育成を、教育目標に掲げています。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 高度な専門的知識を身につけるための基礎学力を持っている人（知識・理解）
- ② 柔軟かつ論理的に問題を解決する基礎力を持っている人（思考力・判断力）
- ③ 身近な生活環境に対する関心と観察力を持っている人（興味・関心、観察力）
- ④ 表現行為に興味を持ち主体的に創意工夫のできる人（表現力）
- ⑤ 積極的行動力を身につけるための基礎力をもつ人（行動力）

2. 入学者選抜の基本方針

生活デザイン学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに高校教育や日常生活によって培われた、思考力・判断力、興味・関心、観察力、表現力、行動力についても評価します。このため一般入試（前期日程と後期日程）と特別入試を実施し、大学入試センター試験、個別学力試験、個別実技試験、個別面接を課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A、C）では、確かな基礎学力（知識・理解）と興味・関心、行動力を重視します。このため、大学入試センター試験（国語 / 数学 / 理科 / 地歴公民から 3 教科・外国語）と個別面接を課します。

生活栄養学科

生活栄養学科は、食物を介して栄養が健康に寄与するという認識を基盤として、人の健康に貢献する高度な専門職業人の育成を目的としています。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 食、栄養、運動、健康の関わりに興味を持ち、自己の能力向上ならびに社会的貢献に意欲のある人（関心・意欲）
- ② 自分が伝えたいことを相手に表現し、協働できる力を有する人（表現力・協働性）
- ③ 栄養学を学ぶために必要な基礎学力を有する人（知識・理解）
- ④ 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる力のある人（思考力・判断力）

2. 入学者選抜の基本方針

生活栄養学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに高校教育や日常生活によって培われた、思考力・判断力、関心・意欲、表現力・協働性についても評価します。このため一般入試（前期日程と後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ大学入試センター試験と個別学力試験、大学入試センター試験と個別面接を課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A）では、大学入試センター試験は 5 教科（国語・数学・英語・理科・地歴公民）を課し、高等学校で身につける文科系・理科系にわたる基礎学力（知識・理解）を評価します。個別面接では、「関心・意欲」、「表現力」、「協働性」を合わせて評価します。

人間関係学科

人間関係学科では、人間関係を生涯にわたって発達・変化していくものとして柔軟に捉え、自身と共同体との関わりについて考え続けるための総合的教育を行っています。入学後には、人間関係への興味・関心を持ち、さまざまな環境における人間どうしのあり方を記述し、実践的にとらえ直すことが中心課題となります。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① さまざまな共同体で生じる問題に取り組むための基礎学力を有する人（知識・理解）
- ② 自他の体験を客観的に記述し、とらえ直す力を有する人（思考力・構成力）
- ③ さまざまな発達段階・環境における人と人との関わりに関心を持ち、自ら学ぶ強い意欲を有する人（関心・意欲）
- ④ 自分の考えや意見を表現し、相手に伝えるための基礎的な能力を有する人（読解力・表現力）

2. 入学者選抜の基本方針

人間関係学科の選抜試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、大学生活の中で人間関係のあり方を記述しとらえ直すための関心・意欲、思考力、表現力を選抜基準とします。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、個別面接の中から 2 つを組み合わせる課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A）では、高等学校までの教育課程とともに、思考力と判断力、および柔軟な興味と関心を持つ力を重視し、総合問題（英語、文系総合問題）と個別面接を課します。

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科は、グローバル化する現代社会において、広く活躍できる見識とコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目標としています。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 英語もしくは他の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、モンゴル語など）について高い運用能力を身につけるために必要な語学力を有する人（知識・理解、技術・技能）
- ② 幅広い知識や教養の基盤となる国語、地理歴史または公民、数学または理科についての基礎学力を有する人（知識・理解）
- ③ 自国および諸外国の社会・文化・歴史等への強い関心と学習への意欲を有する人（関心・意欲）
- ④ 自分の考えや意見を積極的に提示し、相手の理解を得るための基礎的な能力を有している人（表現力）
- ⑤ グローバル化によって発生する課題について、人々との交流を通して、自らの見解を形成しようとする姿勢を有する人（協働性）

2. 入学者選抜の基本方針

国際コミュニケーション学科の入学試験では、基礎学力（知識・理解）を重視するとともに、外国語（特に英語）の運用能力（語学力）を重要な評価ポイントとします。さらに、関心・意欲、表現力、協働性についても評価します。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、総合問題、個別面接を組み合わせで課します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、関心・意欲ならびに表現力と協働性を重視します。このため、総合問題（英語・文系総合問題）と個別面接を課します。

人間看護学部 人間看護学科

人間看護学部では、多面的な視野に立って人間と健康に関わる問題を解決し、地域に貢献できる看護職者を育成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 人間に対する関心をもち、対人関係の基礎的な能力を有する人（表現力・協調性）
- ② 生命、医療、看護に対して強い関心をもち、自ら学ぼうとする意欲を有する人（意欲・探求力）
- ③ 高度な専門的知識を身につけるために必要な確かな基礎学力を有する人（知識・理解）
- ④ 見出された課題解決に向けて論理的に思考できる基盤を有する人（思考力・判断力）
- ⑤ 地域社会から国際社会の問題まで広範な関心をもち、人と協働する力を有する人（関心・協働性）

2. 入学者選抜の基本方針

人間看護学部の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高等学校での教育や日常生活により培われた意欲・探求力、表現力・協調性、関心・協働性、思考力・判断力についても評価します。このため、一般入試（前期日程と後期日程）と特別入試（推薦入試）を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、グループ討論、面接の中から2つを組み合わせで課します。また、現に看護職である人や看護学生を対象に第3年次編入学試験を実施します。

3. 選抜方法

【特別入試（推薦入試）】

特別入試（推薦入試 A）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、意欲・探求力、表現力・協調性、関心・協働性、思考力・判断力を評価します。このため、総合問題（英語、文系総合問題、生物）に加え、グループ討論を課します。

帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試 学生受入方針

本学は、地域に根ざしながら、世界に開かれた大学となることを目指して、多様な学生の受け入れを推進しています。

1. 求める学生像

- ① 各学科の専門領域を学ぶために必要な基礎学力、さらに幅広い教養の基盤となる基礎学力を有する人（知識・理解、技術・技能）
- ② 各学科の専門領域への強い関心と学習への意欲を有する人（関心・意欲）
- ③ 今までの学習や体験に基づいて自分の考えや意見を積極的に提示し、相手の理解を得るための基礎的な能力を有している人（表現力）
- ④ 地域社会や国際社会で、人々と協働して問題を見つけ解決するために必要な基礎的なコミュニケーション能力を有する人（思考力・判断力・協働性）

2. 入学者選抜の基本方針

帰国子女特別入試

大学入試センター試験、総合問題、調査書、面接など、各学科の定める入学者選抜方法により、「求める学生像」との合致性を総合的に判断して選抜します。

私費外国人留学生特別入試

日本留学試験（独立行政法人日本学生支援機構により実施）、個別学力試験、面接など、各学科の定める入学者選抜方法により、「求める学生像」との合致性を総合的に判断して選抜します。

Ⅱ 入学定員と募集人員（平成 31 年度入学者選抜）

学 部 名	入 学 定 員	募 集 人 員						
		一 般 入 試		特 別 入 試				
		前 期 日 程	後 期 日 程	推 薦 入 試 A	推 薦 入 試 B	推 薦 入 試 C	帰 国 子 女	私費外国人 留 学 生
環 境 科 学 部	180 人	82 人	55 人	36 人	—	7 人	—	—
環 境 生 態 学 科	30 人	11 人	10 人	6 人	—	3 人	若干名	若干名
環境政策・計画学科	40 人	16 人	12 人	8 人	—	4 人	若干名	若干名
環境建築デザイン学科	50 人	25 人	15 人	10 人	—	若干名	若干名	若干名
生物資源管理学科	60 人	30 人	18 人	12 人	—	—	若干名	若干名
工 学 部	150 人	70 人	50 人	30 人	—	—	—	—
材 料 科 学 科	50 人	20 人	20 人	10 人	若干名	—	若干名	若干名
機械システム工学科	50 人	25 人	15 人	10 人	若干名	—	若干名	若干名
電子システム工学科	50 人	25 人	15 人	10 人	若干名	—	若干名	若干名
人 間 文 化 学 部	200 人	100 人	60 人	40 人	—	—	—	—
地 域 文 化 学 科	60 人	30 人	18 人	12 人	—	若干名	若干名	若干名
生活デザイン学科	30 人	15 人	9 人	6 人	—	若干名	若干名	若干名
生 活 栄 養 学 科	30 人	15 人	9 人	6 人	—	—	若干名	若干名
人 間 関 係 学 科	30 人	15 人	9 人	6 人	—	—	若干名	若干名
国際コミュニケーション学科	50 人	25 人	15 人	10 人	—	—	若干名	若干名
人 間 看 護 学 部	70 人	40 人	10 人	20 人	—	—	若干名	—
人 間 看 護 学 科								
計	600 人	292 人	175 人	126 人	—	7 人	—	—

- (注) 1 一般入試の「前期日程」および「後期日程」は、分離・分割方式の区分によります。
- 2 「推薦入試A」は、高等学校を平成 30 年度中に卒業または卒業見込みの者を対象とします。
- 3 「推薦入試B」は、高等学校の職業に関する学科若しくは総合学科を平成 30 年度中に卒業または卒業見込みの者を対象とします。ただし、工業に関する科目を 20 単位以上取得した者または取得見込みの者に限ります。
- 4 「推薦入試C」は、高等学校を平成 30 年度中に卒業または卒業見込みの者を対象とし、「推薦入試A」および「推薦入試B」の出願資格に付されている地域等の条件を付さないものとします。なお「推薦入試A」と「推薦入試C」の併願はできません。
- 5 特別入試の合格者数は、試験結果によって、募集人員を下回る場合があります。
- 6 環境科学部環境政策・計画学科は、推薦入試 A、推薦入試 C の募集区分において、合格者が募集人員に満たない場合は、学科の推薦入試募集人員（12 名）に達するまで、各区分の人員を超えて合格者を決定する場合があります。

Ⅲ 推薦入試

本学には、地域等の条件を付す【推薦入試A】と【推薦入試B】に加えて、地域等の条件を付さない【推薦入試C】の3つの推薦入試があります。

1 出願資格

【推薦入試A・推薦入試B】

次の(1)～(3)のいずれの条件にも該当し、出身学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は、必ず本学に入学することを確約できる者としてします。

ただし、環境科学部環境政策・計画学科、環境科学部環境建築デザイン学科、工学部材料科学科、工学部機械システム工学科、工学部電子システム工学科、人間文化学部生活デザイン学科、人間文化学部生活栄養学科を志願する者については、平成31年度大学入試センター試験のうち、本学の指定する教科・科目を登録し、受理された者であって、次の(1)～(3)のいずれの条件にも該当し、出身学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は、必ず本学に入学することを確約できる者としてします。

(1) 卒業等の条件……次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校もしくは中等教育学校を平成30年度中に卒業または卒業見込みの者
- ② 「推薦入試B」は、高等学校の職業に関する学科若しくは総合学科を平成30年度中に卒業または卒業見込みの者で、工業に関する科目を20単位以上を取得した者または取得見込みの者に限ります
- ③ 通常の課程による12年の学校教育を平成30年度中に修了または修了見込みの者
- ④ 大学入学資格が付与されている専修学校の高等課程の学科を平成30年度中に修了または修了見込みの者
- ⑤ 各種学校を平成30年度中に卒業または卒業見込みの者で、本学の個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成31年3月31日までに18歳に達するもの

※ (1)の⑤により出願を希望する者については、出願前の平成30年10月12日（金）までに教務課入試室（電話0749-28-8217・8243）へ連絡し、入学資格審査を受けてください。

(2) 地域等の条件……次のいずれかに該当する者

- ① 滋賀県内の学校を平成30年度中に卒業（修了）または卒業（修了）見込みの者
- ② 入学の1年前（平成30年4月1日）から引き続き本人または保護者（親権者）が滋賀県内に居住している者

(3) 学科に対する適性の条件

人物が優れ、志望する学科のアドミッション・ポリシーに対し適性を有し、学習意欲のある者としてします。

【推薦入試C】

次の(1)～(2)のいずれの条件にも該当し、出身学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は必ず本学に入学することを確約できる者としてします。

ただし、環境科学部環境政策・計画学科および人間文化学部生活デザイン学科を志願する者については、平成31年度大学入試センター試験のうち、本学の指定する教科・科目を登録し、受理された者であって、次の(1)～(2)のいずれの条件にも該当し、出身学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は、必ず本学に入学することを確約できる者としてします。

(1) 卒業等の条件……次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校もしくは中等教育学校を平成30年度中に卒業または卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を平成30年度中に修了または修了見込みの者
- ③ 大学入学資格が付与されている専修学校の高等課程の学科を平成30年度中に修了または修了見込みの者
- ④ 各種学校を平成30年度中に卒業または卒業見込みの者で、本学の個別の入学資格審査によ

り、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成31年3月31日までに18歳に達するもの

※ (1)の④により出願を希望する者については、出願前の平成30年10月12日（金）までに教務課入試室（電話0749-28-8217・8243）へ連絡し、入学資格審査を受けてください。

(2) 学科に対する適性の条件

人物が優れ、志望する学科のアドミッション・ポリシーに対し適性を有し、学習意欲のある者としします。

2 推薦人数

出身学校長が推薦できる人数は、各学科ごとに推薦入試A・B・Cを含め2名までとします。ただし、人間看護学科は3名までです。

3 選抜方法

【推薦入試A・推薦入試B】

学 部・学 科 名		選 抜 方 法
環境科学部	環境生態学科 生物資源管理学科	大学入試センター試験を免除し、総合問題および評定平均値を含む調査書などに基づく面接の結果を総合して選抜します。
人間文化学部	地域文化学科 人間関係学科	
	国際コミュニケーション学科	
人間看護学部	人間看護学科	
環境科学部	環境政策・計画学科 環境建築デザイン学科	大学入試センター試験を課し、大学入試センター試験の成績および評定平均値を含む調査書などに基づく面接の結果を総合して選抜します。
工 学 部	材料科学科 機械システム工学科	
	電子システム工学科	
人間文化学部	生活デザイン学科 生活栄養学科	

【推薦入試C】

学 部・学 科 名		選 抜 方 法
環境科学部	環境生態学科	大学入試センター試験を免除し、総合問題および評定平均値を含む調査書などに基づく面接の結果を総合して選抜します。
人間文化学部	地域文化学科	
環境科学部	環境政策・計画学科	大学入試センター試験を課し、大学入試センター試験の成績および評定平均値を含む調査書などに基づく面接の結果を総合して選抜します。
人間文化学部	生活デザイン学科	
環境科学部	環境建築デザイン学科	評定平均値を含む調査書などに基づく面接の結果により選抜します。

(1) 選抜期日・時間割

1) 選抜期日 平成30年11月25日(日)

2) 時間割

学部・学科	時 間 割						
	9:15	9:30	11:30	12:45	13:00	17:00	
【環境科学部】 環境生態学科 生物資源管理学科 【人間文化学部】 地域文化学科 人間関係学科 国際コミュニケーション学科 【人間看護学部】		入室	総合問題		面接 控室に 入室	面接	
学部・学科			12:30	12:45	13:00	17:00	
【環境科学部】 環境政策・計画学科 環境建築デザイン学科 【工 学 部】 材料科学科 機械システム工学科 電子システム工学科 【人間文化学部】 生活デザイン学科 生活栄養学科				受験者 控室に 集 合	面接 控室に 入室	面接	

(2) 試験会場

滋賀県立大学 (〒522-8533 彦根市八坂町 2500) 〈案内図は裏表紙中面に記載〉

JR 南彦根駅西口からバスで県立大学行き約 15 分

(3) 試験および面接の時間

- ① 総合問題 120分
② 個別面接 10分程度 (口頭試問を実施する場合を除く)
③ グループ面接 30分程度

(4) 試験科目・面接の方法・配点

【推薦入試 A】

学部	学 科	試験科目 (配点)	面接方法 (配点)	備 考
環境科学部	環境生態学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	
	環境政策・計画学科	センター試験 (600)	個別面接 (600)	注 1
	環境建築デザイン学科	センター試験 (600)	個別面接 (600)	注 1
	生物資源管理学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	
工学部	材料科学科	センター試験 (600)	個別面接 (200)	注 1、注 2
	機械システム工学科	センター試験 (800)	個別面接 (200)	注 1
	電子システム工学科	センター試験 (800)	個別面接 (200)	注 1
人間文化学部	地域文化学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	注 2
	生活デザイン学科	センター試験 (400)	個別面接 (200)	注 1、注 2
	生活栄養学科	センター試験 (450)	個別面接 (200)	注 1
	人間関係学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	
	国際コミュニケーション学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	注 2
人間看護学部 人間看護学科		総合問題 (200)	グループ面接 (100)	注 3

【推薦入試 B】

学部	学 科	試験科目（配点）	面接方法（配点）	備 考
工 学 部	材料科学科	センター試験（600）	個別面接（200）	注 1、注 2
	機械システム工学科	センター試験（700）	個別面接（300）	注 1、注 4
	電子システム工学科	センター試験（800）	個別面接（400）	注 1、注 2

【推薦入試 C】

学部	学 科	試験科目（配点）	面接方法（配点）	備 考
環 境 科 学 部	環境生態学科	総合問題（100）	個別面接（100）	
	環境政策・計画学科	センター試験（600）	個別面接（600）	注 1
	環境建築デザイン学科		個別面接（100）	注 5
人 間 文 化 学 部	地域文化学科	総合問題（100）	個別面接（100）	注 2
	生活デザイン学科	センター試験（400）	個別面接（200）	注 1、注 2

注 1 大学入試センター試験の利用教科・科目は別表 1（22～25 ページ）のとおりです。

注 2 個別面接時に志望する学科のアドミッション・ポリシーに沿った口頭試問を実施します。

注 3 グループ面接は、当日の面接試験前に発表するテーマについて、グループ討論の形式で行います。

注 4 工学部機械システム工学科（推薦入試 B）は、個別面接時に数学および物理に関する口頭試問を実施します。

注 5 環境建築デザイン学科（推薦入試 C）は個別面接時に、建築・デザインに関わる作品等これまでの活動成果について、5 分間のプレゼンテーションを行ってもらいます。活動成果を具体的に表現するものを面接時に持参してください。なお、建築・デザインに関わる顕著な実績（例えば、全国規模のコンクール受賞など）があれば、積極的にプレゼンテーションに加えてください。

(5) 試験科目の内容

総合問題は、英語力を問う設問が出題されるほか、志望する学科において履修上必要と考えられる基礎的な学力を測る設問が出題されます。

4 出願手続き

(1) 受付期間 平成 30 年 11 月 1 日（木）から 11 月 8 日（木）まで（必着）

出願にあたっては、志願者ごとに所定の出願書類提出用封筒〔I 票〕を用い、学校ごとに一括して、書留速達扱いの郵送または直接持参により提出してください。

持参による場合の受付時間は、土・日および祝祭日を除く平日の午前 9 時から午前 11 時 30 分および午後 0 時 30 分から午後 5 時までとします。

なお、出願書類は受付期間最終日必着のため、郵送にかかる期間を十分考慮のうえ発送してください。（出願期間後に到着したものは、受理しません。）

(2) 願書提出先

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

滋賀県立大学 入学試験実施本部（管理棟 2 階教務課）（☎ 0749-28-8226）

(3) 出願書類

出願に必要な書類		作成方法
A 1 票	入 学 志 願 票（原 票）	・ 39～43 ページの記入例および記入上の注意を参照のうえ、必要事項をもれなく記入してください。 ・ 受験票・写真票の写真貼付欄には縦 4 cm× 3 cmの写真（正面上半身無帽、背景なし、出願前 3 か月以内に撮影したもの）を、はがれないようにしっかりと貼付してください。
B 票	入学志願票（電算処理票）	
C 票	住 所 票	
D 票	受 験 票	
E 票	写 真 票	
F 票	入 学 検 定 料 振 込 確 認 票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付してください。
	調 査 書 ま た は 成 績 証 明 書 な ど	文部科学省所定の様式により出身学校長が作成し、厳封したもの。なお、大学入学資格が付与されている専修学校および各種学校については、成績証明書など文部科学省の所定の様式に準じて作成し、提出してください。
G 票	推 薦 書	本学所定の様式により出身学校長が作成し、厳封して提出してください。
H 票	受 験 票 返 送 用 封 筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、82 円分の郵便切手を貼付してください。
I 票	出 願 書 類 提 出 用 封 筒	「出願区分」欄の「推薦入試 A－C」に○印をし、必要事項を記入してください。
入学検定料 17,000 円 ・ 入学検定料は、本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、出願受付期間の 3 週間前から出願受付最終日までの間に、指定の金融機関に振り込んでください。なお、ATM（現金自動預け払い機）は利用できません。 ・ 振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。 * 推薦入試 A または B を志望する者で滋賀県内の学校以外の方は、次の J1 票または J2 票を添付してください。		
J 1 票	記 載 事 項 証 明 書 （本人用）	本人が滋賀県内に居住している場合（J2 票は不要）
J 2 票	記 載 事 項 証 明 書 （保護者用）	保護者（親権者）のみが滋賀県内に居住している場合 * 保護者（親権者）である旨の学校長の証明を書き添えてください。

（注） A 1 票～ J 2 票の各書類は、本冊子に添付されています。

(4) 障がい等がある入学志願者との事前相談

障がい等のある入学志願者で、受験上および修学上の配慮を希望する場合は、できるだけ早い時期（平成30年10月12日（金）まで）に滋賀県立大学教務課 入試室（☎0749-28-8217・8243、E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp）まで連絡し、相談してください。

出願締切後に、不慮の事故等のため、受験上および修学上の配慮を希望する場合は、速やかに上記連絡先まで連絡し、相談してください。

5 合格発表

(1) 発表期日

1) 総合問題または面接のみを課す学部・学科および推薦入試Cの環境建築デザイン学科

平成30年12月11日（火）午前9時

2) 大学入試センター試験を課す学部・学科

平成31年 2月13日（水）午前9時

滋賀県立大学構内に掲示板を設け、合格者の受験番号を掲示するとともに、出身学校長に合格者名を通知し、合格者には合格通知書を郵送します。

なお、電話等による問い合わせには応じません。

(2) 合格速報サービス

携帯電話サイトで同時刻より合格者を速報します。詳しくは巻頭の「携帯電話サイトとインターネットによる入試情報について」をご覧ください。

(3) 合格しなかった者の取扱い

選抜の結果、合格しなかった者は、本学の「平成31年度学生募集要項【一般入試】」に定められた出願手続をとって、前期日程試験および後期日程試験を受験することができます。

ただし、本学の指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験する必要があります。

なお、大学入試センター試験を課す学部・学科を受験した者は、合格発表に先立って一般入試の出願手続をする必要があります。

6 試験結果の開示

公立大学法人滋賀県立大学の保有する個人情報の保護等に関する規程第13条に基づき、受験者本人が次により自己の試験結果を開示請求することができます。

(1) 開示内容

推薦入試試験にかかる順位

(2) 受付・開示期間

1) 総合問題または面接のみを課す学部・学科

平成30年12月12日（水）から平成31年1月11日（金）まで

2) 大学入試センター試験を課す学部・学科

平成31年2月14日（木）から平成31年3月14日（木）まで

受付時間は、土・日・祝祭日、年末年始（12/29～1/3）、2月25日（月）および3月12日（火）を除く平日の午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。

(3) 開示場所

滋賀県立大学 事務局教務課 管理棟 2階

(4) 持参するもの

受験票

(5) その他

- ・電話等による問い合わせには応じません。
- ・本人以外の請求には応じません。

7 注意事項

(1) 出願手続上の注意事項

- ① 大学入試センター試験を課す学部・学科を志願する者は、出願にあたって本学が指定している「大学入試センター試験利用教科・科目」(21～23ページ)を登録しているかを必ず確認してください。
- ② 必要な書類がすべてそろっていない場合は受け付けないので、出願の際には十分確認してください。また、郵送の場合には所要日数を十分に考慮して発送してください。
- ③ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- ④ 出願受付後には出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合には、滋賀県立大学入学試験実施本部まで連絡してください。
- ⑤ 試験日の3日前までに受験票が届かないときは、滋賀県立大学入学試験実施本部まで問い合わせてください。
- ⑥ 一度正式に受付をした出願書類および受領した入学検定料は、理由のいかんを問わず返還しません。ただし、次の(ア)または(イ)に該当する者は、入学検定料の一部または全部を返還しますので、大学にその旨を申し出て、所定の返還手続をしてください。
 - (ア) 入学検定料を振り込んだ者で、出願期間内に受験票を提出しなかった者
 - (イ) 入学検定料を誤って二重に振り込んだ者

(2) 受験上の注意事項

- ① 試験当日は、「本学受験票」を必ず持参してください。また、受験票に同封する「受験上の注意事項」をよく読んで受験してください。
- ② 総合問題の受験者は、入室時刻までに指定された試験室に入室し、着席してください。また、大学入試センター試験を課す学部学科の受験者(面接のみの受験者)は、当日指定された集合時刻までに受験者控室に集合し、待機してください。
- ③ 総合問題の開始後は、30分以内の遅刻に限り受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。
- ④ 総合問題もしくは大学入試センター試験および面接のいずれか一方でも受けなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。
- ⑤ 大学入試センター試験を課す学部・学科の受験者は、本学の指定している「大学入試センター試験教科・科目」を必ず受験してください。なお、大学入試センター試験の「地理歴史」・「公民」および「理科②」について、受験科目を1科目と指定している学科を受験した場合、2科目受験した者は、第1解答科目の得点を採用しますので、注意してください。
- ⑥ 当日、受験票を忘れた者は、速やかに試験本部で仮受験票の交付を受けてください。また、受験票は入学手続の際に必要となるので、試験後も大切に保管してください。
- ⑦ 総合問題(または実技試験)の時間に使用を許可するものは、鉛筆(シャープペンシルも可)、消しゴム、鉛筆削り、時計(計時機能のみのもの)に限ります。
- ⑧ 試験室での受験者間の物品の貸借は一切認めません。

- ⑨ 試験場や南彦根駅前などで、金銭を必要とする合格電報等の受付を行う者がいても、滋賀県立大学とは一切関係がありません。住所や電話番号を相手方に伝え、その後、トラブル等が生じても、本学では責任を負えないので注意してください。
- ⑩ 選抜期日の前日に限り試験場の下見はできますが、建物内への立入はできません。
- ⑪ その他必要が生じた場合には、受験票送付の際に併せて通知します。

(3) その他の注意事項

- ① 合格者が入学を辞退することは基本的に認められませんが、特別の事情により入学辞退を希望する者は、平成 30 年 12 月 18 日（火）までに（大学入試センター試験を課す学部・学科の合格者は平成 31 年 2 月 19 日（火）までに）「推薦入学辞退願」（様式は問わない。）を出身学校長と連署の上、本学学長あてに提出し、その許可を得なければなりません。
- ② 本学推薦入試の合格者は、他の国公立大学（独自日程で入学者選抜を行う公立大学・学部を除く。）に出願しても受験することはできません。たとえ受験しても、受験者として扱われません。
（特別な事情により入学辞退せざるを得ない者で、推薦を行った学校長と連署の推薦入学辞退願を提出し、許可された場合はこの限りではありません。）
- ③ 本学の推薦入試の不合格者および合格者のうち入学辞退を許可された者は、通常の国公立大学の個別学力検査等に出願することができます。ただし、当該大学の指定する大学入試センター試験教科・科目を受験することが必要です。

(別表 1) 平成 31 年度入学者特別入試における大学入試センター試験利用教科・科目 等
【推薦入試 A】

学部名	学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目等	大学入試センター試験の配点等				
			国語	地歴 公民	数学	理科	外国語 合計
環境科学部	環境政策・計画学科	「国」 「世 A」, 「世 B」, 「日 A」, 「日 B」, 「地理 A」, 「地理 B」 「現社」, 「倫」, 「政経」, 「倫・政経」 「数 I」, 「数 I・数 A」, 「数 II」, 「数 II・数 B」, 「簿」, 「情報」 から 1 (注 3) 「物基」, 「化基」, 「生基」, 「地基」 から 2 または「物」, 「化」, 「生」, 「地学」 から 1 (注 3) 「英」 (注 1) [5 教科 6 (7) 科目]	100	100	200	100	600
		「国」 「世 A」, 「世 B」, 「日 A」, 「日 B」, 「地理 A」, 「地理 B」 「現社」, 「倫」, 「政経」, 「倫・政経」 「数 I」, 「数 I・数 A」, 「数 II」, 「数 II・数 B」, 「簿」, 「情報」 から 1 (注 3) 「物」, 「化」, 「生」, 「地学」 から 2 「英」 (注 1) [5 教科 6 科目]	100	100	100	200	600
	材料科学科	「国」 「世 A」, 「世 B」, 「日 A」, 「日 B」, 「地理 A」, 「地理 B」 「現社」, 「倫」, 「政経」, 「倫・政経」 「数 I・数 A」と 「数 II・数 B」, 「簿」, 「情報」 から 1 (注 2) 「物」と「化」 「英」 (注 1) [5 教科 7 科目]	50	50	200	200	600
		「国」 「世 A」, 「世 B」, 「日 A」, 「日 B」, 「地理 A」, 「地理 B」 「現社」, 「倫」, 「政経」, 「倫・政経」 「数 I・数 A」と 「数 II・数 B」, 「簿」, 「情報」 から 1 (注 2) 「物」と「化」 「英」 (注 1) [5 教科 7 科目]	100	100	200	200	800
工学部	機械システム工学科	「国」 「世 A」, 「世 B」, 「日 A」, 「日 B」, 「地理 A」, 「地理 B」 「現社」, 「倫」, 「政経」, 「倫・政経」 「数 I・数 A」と 「数 II・数 B」, 「簿」, 「情報」 から 1 (注 2) 「物」と「化」 「英」 (注 1) [5 教科 7 科目]	100	100	200	200	800
		「国」 「世 A」, 「世 B」, 「日 A」, 「日 B」, 「地理 A」, 「地理 B」 「現社」, 「倫」, 「政経」, 「倫・政経」 「数 I・数 A」と 「数 II・数 B」, 「簿」, 「情報」 から 1 (注 2) 「物」と「化」 「英」 (注 1) [5 教科 7 科目]	100	100	200	200	800

学部名	学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目等		大学入試センター試験の配点等				
				国語	地歴 公民	数学	理科	外国語 合計
工学部	電子システム工学科	国語 地歴 公民 数学 理科 外国語	「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物」と「化」 「英」(注1)	100	100	200	200	200
			「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から1 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」から1 (注1)	*100	*100	*100	*100	100
人間文化学部	生活デザイン学科	国語 地歴 公民 数学 理科 外国語	「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から1 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」から1 (注1)	*100	*100	*100	*100	100
			「国」 「世B」,「日B」,「地理B」 「倫・政経」 「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から2 (注2) 「物」,「化」,「生」から2 「英」(注1)	100	50	100	100	100
	生活栄養学科	国語 地歴 公民 数学 理科 外国語	「国」 「世B」,「日B」,「地理B」 「倫・政経」 「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から2 (注2) 「物」,「化」,「生」から2 「英」(注1)	100	50	100	100	100
								450

【推薦入試 B】

学部名	学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目等	大学入試センター試験の配点等				
			国語	地歴 公民	数学	理科	外国語 合計
工学部	材料科学科	「国」 「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から 1 (注2) 「物」と「化」 「英」(注1) [4教科6科目]	50		200	250	100 600
		「国」 「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から 1 (注2) 「物」 「英」(注1) [4教科5科目]	100		200	200	200 700
	機械システム工学科	「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 から 1 (注3) 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から 1 (注2) 「物」と「化」 「英」(注1) [5教科7科目]	100	100	200	200	200 800
		「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 から 1 (注3) 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から 1 (注2) 「物」と「化」 「英」(注1) [5教科7科目]	100	100	200	200	200 800

【推薦入試 C】

学部名	学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目等	大学入試センター試験の配点等				
			国語	地歴 公民	数学	理科	外国語 合計
環境科学部	環境政策・計画学科	「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 から 1 (注3) 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から 2 (注2) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から 2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から 1 (注3) 「英」(注1) [5教科6 (7) 科目]	100	100	200	100	100 600
		「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 から 1 (注3) 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から 1 (注2) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から 2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から 1 (注1) 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」から 1 (注1) [4教科4 (5) 科目]	*100	*100	*100	*100	100 400
人間文化学部	生活デザイン学科	「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 から 1 (注3) 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から 1 (注2) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から 2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から 1 (注1) 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」から 1 (注1) [4教科4 (5) 科目]	*100	*100	*100	*100	100 400

特記事項

大学入試センター試験の利用教科・科目名の表記について

- 1 利用教科名は次のように略しています。
- 国語→国、地理歴史・公民→地歴公民、数学→数、理科→理、外国語→外

- ## 2 利用科目名は次のように略しています。

「」
↑
「」

「世界史A」→「世A」、「世界史B」→「世B」、「日本史A」→「日A」、「日本史B」→「日B」、「地理A」→「地理A」、「地理B」→「地理B」、「現代社会」→「現社」、「倫理」→「倫」、「政治・経済」→「政経」、「倫理・政治・経済」→「倫・政経」

「数学Ⅰ」→「数Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」→「数Ⅰ・数A」、「数学Ⅱ」→「数Ⅱ」、「数学Ⅱ・数学B」→「数Ⅱ・数B」、「簿記・会計」→「簿」、「情報関係基礎」→「情報」
「物理基礎」→「物基」、「化学基礎」→「化基」、「生物基礎」→「生基」、「地学基礎」→「地基」、「物理」→「物」、「化学」→「化」、「生物」→「生」、「地学」→「地学」
「英語」→「英」、「ドイツ語」→「独」、「フランス語」→「仏」、「中国語」→「中」、「韓国語」→「韓」

- ### 3 次の例のように利用科目名、利用方法を示しています。

【例】「物理」、「化学」、「生物」から1科目を選択 → 「物」、「化」、「生」から1

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等欄について

- 1 配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。
- 2 大学入試センター試験の外国語の「英語」は「筆記(200点満点)」と「リスニング(50点満点)」の合計(250点満点)を学科の傾斜配点に換算して利用します。

注意事項

【大学入試センター試験の利用教科・科目等】欄

- (注1) 外国語の「英語」はリスニングを含みます。(大学入試センターからリスニングを免除された者を除く)
- (注2) 「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校または中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)の者に限ります。
- (注3) 指定された教科(又は科目)の範囲内で、必要とする教科(又は科目)数を超えて受験している場合、得点の高い教科(又は科目)の得点を採用します。ただし、「地理歴史」、「公民」及び「理科②」において受験科目を1科目と指定しているところを2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

Ⅳ 帰国子女特別入試

1 出願資格

日本国籍を有する者および日本国の永住許可を得ている者、その他これに準ずる者であって、保護者の海外勤務等の事情により外国の学校教育を受けている者のうち、以下の各号のいずれかに該当する者です。

ただし、環境科学部環境政策・計画学科、環境科学部環境建築デザイン学科、工学部材料科学科、工学部機械システム工学科、工学部電子システム工学科、人間文化学部生活デザイン学科、人間文化学部生活栄養学科を志願する者については、平成31年度大学入試センター試験のうち、大学の指定する教科・科目を登録し、受理された者で、日本国籍を有する者および日本国の永住許可を得ている者、その他これに準ずる者であって、保護者の海外勤務等の事情により外国の学校教育を受けている者のうち、以下の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 外国の教育制度に基づく教育機関において、最終学年を含め2学年以上継続して学校教育を受け、12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を平成29年4月1日から平成31年3月31日までに卒業(修了)した者および卒業(修了)見込みの者
- (2) 外国の教育制度に基づく教育機関において、2年以上継続して学校教育を受け、12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を中途退学し、引き続き日本の高等学校の第3学年に編入学を認められた者で、平成31年3月卒業見込みの者
- (3) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレアの資格証書を平成29年4月1日以降に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
- (4) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成29年4月1日以降に取得した者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
- (5) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成29年4月1日以降に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者
- (6) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において、大学入学資格として認められているGCE Aレベル資格を平成29年4月1日以降に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者

(注) (1)および(2)において、外国に設置された教育機関であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間は、外国において学校教育を受けたものとはみなされません。

2 選抜方法

学 部 ・ 学 科 名		選 抜 方 法
環境科学部	環境生態学科	大学入試センター試験を免除し、総合問題および評定平均値を含む調査書などに基づく面接の結果を総合して選抜します。
	生物資源管理学科	
人間文化学部	地域文化学科	
	人間関係学科	
	国際コミュニケーション学科	大学入試センター試験を課し、大学入試センター試験の成績および調査書などに基づく面接の結果を総合して選抜します。
人間看護学部	人間看護学科	
環境科学部	環境政策・計画学科	
	環境建築デザイン学科	
工 学 部	材料科学科	
	機械システム工学科	
	電子システム工学科	
人間文化学部	生活デザイン学科	
	生活栄養学科	

(1) 選抜期日・時間割

1) 選抜期日 平成30年11月25日(日)

2) 時 間 割

学部・学科	時 間 割						
	9:15	9:30	11:30	12:45	13:00	17:00	
【環境科学部】 環境生態学科 生物資源管理学科 【人間文化学部】 地域文化学科 人間関係学科 国際コミュニケーション学科 【人間看護学部】 人間看護学科		入 室	総合問題		面 接 控室に 入 室	面 接	
学部・学科	12:30		12:45	13:00	17:00		
【環境科学部】 環境政策・計画学科 環境建築デザイン学科 【工 学 部】 材料科学科 機械システム工学科 電子システム工学科 【人間文化学部】 生活デザイン学科 生活栄養学科			受験者 控室に 集 合	面 接 控室に 入 室	面 接		

(2) 試験会場

滋賀県立大学 (〒522-8533 彦根市八坂町 2500) (案内図は裏表紙中面に記載)

J R 南彦根駅西口からバスで県立大学行き約 15 分

(3) 試験科目・面接の方法・配点

学部	学 科	試験科目 (配点)	面接方法 (配点)	備 考
環境科学部	環境生態学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	注 2
	環境政策・計画学科	センター試験 (600)	個別面接 (600)	注 1
	環境建築デザイン学科	センター試験 (400)	個別面接 (400)	注 1
	生物資源管理学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	注 2
工学部	材料科学科	センター試験 (600)	個別面接 (200)	注 1、注 3
	機械システム工学科	センター試験 (800)	個別面接 (200)	注 1
	電子システム工学科	センター試験 (800)	個別面接 (200)	注 1
人間文化学部	地域文化学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	注 2、注 3
	生活デザイン学科	センター試験 (300)	個別面接 (150)	注 1、注 3
	生活栄養学科	センター試験 (300)	個別面接 (100)	注 1、注 3
	人間関係学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	注 2
	国際コミュニケーション学科	総合問題 (100)	個別面接 (100)	注 2、注 3
人間看護学部	人間看護学科	総合問題 (200)	個別面接 (100)	注 2

注 1 大学入試センター試験の利用教科・科目は別表 2 (30 ～ 31 ページ) のとおりです。

注 2 総合問題の試験時間は、120 分とし、英語力を問う設問を含みます。

注 3 工学部材料科学科、人間文化学部地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科および国際コミュニケーション学科は、面接時に志望する学科のアドミッション・ポリシーに沿った口頭試問を実施します。

3 出願手続き

(1) 受付期間 平成 30 年 11 月 1 日 (木) から 11 月 8 日 (木) まで (必着)

出願にあたっては、所定の出願書類提出用封筒 [I 票] を用い、書留速達扱いの郵送に限ります。

なお、出願書類は受付期間最終日必着のため、郵送に掛かる期間を十分考慮のうえ発送してください。(出願期間後に到着したものは、受理しません。)

(2) 願書提出先

〒 522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

滋賀県立大学 入学試験実施本部 (管理棟 2 階教務課) (☎ 0749-28-8226)

(3) 出願書類

出願に必要な書類		作成方法
A 2 票	入学志願票（原票） [裏面] 身上調書	・ 39～43 ページの記入例および記入上の注意を参照のうえ、必要事項をもれなく記入してください。 ・ 大学入試センター試験受験科目申告書（A 2－2 票）は、大学入試センター試験を利用する学部・学科を志願する場合のみ提出してください。 ・ 受験票・写真票の写真貼付欄には縦 4 cm × 3 cm の写真（正面上半身無帽、背景なし、出願前 3 か月以内に撮影したもの）を、はがれないようにしっかりと貼付してください。
A 2-2 票	大学入試センター試験 受験科目申告書	
C 票	住所票	
D 票	受験票	
E 票	写真票	
F 票	入学検定料振込確認票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付してください。
	卒業（修了）証明書および成績証明書等	外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者は、最終出身学校の卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書および成績証明書 国際バカロレア資格取得者、アビトゥア資格取得者、バカロレア資格（フランス共和国）取得者、GCE A レベル資格取得者については、当該試験の資格証書の写しおよび成績証明書
	調査書	日本の高等学校に在籍したことがある者または在学中の者は、文部科学省の所定の様式により高等学校長が作成し厳封したもの
	志願者および保護者の海外在留証明書	志願者が海外に在留したことを証明する書類（志願者のパスポートの写し）および保護者が海外に在留したことを証明する書類（保護者の所属長が証明した海外勤務証明書（在留期間、在留地等が記入されているもの）等）
H 票	受験票返送用封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、82 円分の郵便切手を貼付してください。
I 票	出願書類提出用封筒	「出願区分」欄の「4. 帰国子女特別入試」に○印をし、必要事項を記入してください。
入学検定料 17,000 円 ・ 入学検定料は、本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、出願受付期間の 3 週間前から出願受付最終日までの間に、指定の金融機関に振り込んでください。なお、ATM（現金自動預け払い機）は利用できません。 ・ 振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。		

（注）A 2 票～I 票の各書類は、本冊子に添付されています。

（注）英語以外の外国語で書かれた書類については、日本語訳もしくは英語訳を添付してください。

(4) 障がい等がある入学志願者との事前相談

障がい等のある入学志願者で、受験上および修学上の配慮を希望する場合は、できるだけ早い時期（平成30年10月12日(金)まで）に滋賀県立大学教務課 入試室(☎0749-28-8217・8243、E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp)まで連絡し、相談してください。

出願締切後に、不慮の事故等のため、受験上および就学上の配慮を希望する場合は、速やかに上記連絡先まで連絡し、相談してください。

4 合格発表

(1) 発表期日

1) 総合問題または面接のみを課す学部・学科

平成30年12月11日(火) 午前9時

2) 大学入試センター試験を課す学部・学科

平成31年 2月13日(水) 午前9時

滋賀県立大学構内に掲示板を設け、合格者の受験番号を掲示するとともに、受験者に可否通知書を郵送します。なお、電話等による問い合わせには応じません。

(3) 合格しなかった者の取扱い

選抜の結果、合格しなかった者は、本学の「平成31年度学生募集要項【一般入試】」に定められた出願手続をとって、前期日程試験および後期日程試験を受験することができます。

ただし、本学の指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験する必要があります。

なお、大学入試センター試験を課す学部・学科を受験した者は、合格発表に先立って一般入試の出願手続をする必要があります。

5 その他

出願手続上、受験上の注意事項については、「推薦入試」の項（19～20ページ）を参照してください。

(別表 2)

【帰国子女特別入試】

学部名	学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目等					大学入試センター試験の配点等				
		国語 数学 外国語	「国」 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数Ⅱ」,「数Ⅱ」,「数Ⅱ・数Ⅲ」,「簿」,「情報」 から2 (注2) 「英」 (注1)	[3教科4科目]		国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	合計
環境科学部	環境政策・計画学科	国語 数学 外国語	「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数Ⅱ」,「数Ⅱ」,「数Ⅱ・数Ⅲ」,「簿」,「情報」 から2 (注2) 「英」 (注1)	[3教科4科目]		200		200		200	600
	環境建築デザイン学科	数学 理科 外国語	「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数Ⅱ」,「数Ⅱ」,「数Ⅱ・数Ⅲ」,「簿」,「情報」 から1 (注3) 「物」,「化」,「生」,「地学」 から2 「英」 (注1)	[3教科4科目]				100	200	100	400
工学部	材料科学科	数学 理科 外国語	「数Ⅰ・数Ⅱ」と 「数Ⅱ・数Ⅲ」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物」と「化」 「英」 (注1)	[3教科5科目]				200	250	150	600
	機械システム工学科	数学 理科 外国語	「数Ⅰ・数Ⅱ」と 「数Ⅱ・数Ⅲ」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物」と「化」 「英」 (注1)	[3教科5科目]				300	300	200	800
	電子システム工学科	数学 理科 外国語	「数Ⅰ・数Ⅱ」と 「数Ⅱ・数Ⅲ」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物」と「化」 「英」 (注1)	[3教科5科目]				300	300	200	800
				[3教科5科目]							

学部名	学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目等	大学入試センター試験の配点等				
			国語	地歴 公民	数学	理科	外国語 合計
人間文化学部	生活デザイン学科	「国」 「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 から1 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 「数I」,「数I・数A」,「数II」,「数II・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から1 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」から1 (注1)	*100	*100	*100	*100	100
		国、地歴公民、 数、理から 2教科選択 [3教科3 (4) 科目]					300
	生活栄養学科	「数I・数A」,「数II・数B」,「簿」,「情報」から1 (注2) 「物」,「化」,「生」から1 「英」 (注1) [3教科3科目]			100	100	300

特記事項

大学入試センター試験の利用教科・科目名の表記について

- 利用教科名は次のように略しています。
国語→国、地理歴史・公民→地歴公民、数学→数、理科→理、外国語→外
- 利用科目名は次のように略しています。
「国語」→「国」
「世界史A」→「世A」、「世界史B」→「世B」、「日本史A」→「日A」、「日本史B」→「日B」、「地理A」→「地理A」、「地理B」→「地理B」、
「現代社会」→「現社」、「倫理」、「政治・経済」→「政経」、「倫理・政治・経済」→「倫・政経」
「数学I」→「数I」、「数学I・数A」→「数I・数A」、「数学II」→「数II」、「数学II・数B」→「数II・数B」、「簿記・会計」→「簿」、「情報関係基礎」→「情報」
「物理基礎」→「物基」、「化学基礎」→「化基」、「生物基礎」→「生基」、「地学基礎」→「地基」、「物理」→「物」、「化学」→「化」、「生物」→「生」、「地学」→「地学」
「英語」→「英」、「ドイツ語」→「独」、「フランス語」→「仏」、「中国語」→「中」、「韓国語」→「韓」
- 次の例のように利用科目名、利用方法を示しています。
[例] 「物理」、「化学」、「生物」から1科目を選択 → 「物」、「化」、「生」から1

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等欄について

- 配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。
- 大学入試センター試験の外国語の「英語」は「筆記(200点満点)」と「リスニング(50点満点)」の合計(250点満点)を学部の傾斜配点に換算して利用します。

注意事項

【大学入試センター試験の利用教科・科目等】欄

- (注1) 外国語の「英語」はリスニングを含みます。(大学入試センターからリスニングを免除された者を除く)
- (注2) 「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校または中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)の者に限ります。
- (注3) 指定された教科(又は科目)の範囲内で、必要とする教科(又は科目)数を超えて受験している場合、得点の高い教科(又は科目)の得点を採用します。ただし、「地理歴史」、「公民」及び「理科②」において受験科目を1科目と指定しているところを2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

V 私費外国人留学生特別入試

1 出願資格

次の(1)、(2)、(3)の要件をすべて満たしている方です。

(1) 日本国籍を有しない者で、次の各号のいずれかに該当するもの

- ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および平成31年3月31日までに修了見込みの者、またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ② 本学において個別の入学資格審査により上記に準ずる資格を有すると認められた者で、平成31年3月31日までに18歳に達するもの

(2) 在留資格が「留学」である者、または入学時に「留学」を取得できる見込みの者

(3) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する平成30年度第1回日本留学試験(6月)を受験した者または平成30年度第2回日本留学試験(11月)に出願して受理された者

※1 (1)の②により出願を希望する者については、出願前の平成30年10月12日(金)までに教務課入試室(☎0749-28-8217・8243)へ連絡し、入学資格審査を受けてください。

※2 日本留学試験の利用教科・科目等については、別表3「日本留学試験の利用教科・科目等一覧」(35ページ)を参照し、必要な科目を受験してください。

2 選抜方法

大学入試センター試験を免除し、平成30年度日本留学試験(第1回または第2回)の成績、出願書類ならびに本学が行う学力検査および面接の結果を総合して選抜します。

ただし、環境科学部環境建築デザイン学科は、平成30年度日本留学試験(第1回または第2回)の成績、出願書類および面接の結果を総合して選抜します。

(1) 選抜期日・時間割

1) 選抜期日 平成30年11月25日(日)

2) 時間割

学 部・学 科	時 間 割						
	9:15	9:30	11:30		12:45	13:00	17:00
【環境科学部】 環境生態学科 生物資源管理学科 【人間文化学部】 地域文化学科 生活デザイン学科 人間関係学科 国際コミュニケーション学科		入室	総合問題 (注1)			面接 控室に 入室	面接 (注3)
学 部・学 科	9:15	9:30	10:30	11:00	12:00		
【環境科学部】 環境政策・計画学科 【工 学 部】 材料科学科 機械システム工学科 電子システム工学科 【人間文化学部】 生活栄養学科		入室	英 語	面接 控室に 入室	面接 (注2) (注3)		
学 部・学 科			12:30	12:45	13:00	17:00	
【環境科学部】 環境建築デザイン学科				受験者 控室に 集合	面接 控室に 入室	面接	

(注1) 人間文化学部生活デザイン学科の学力検査は、「デッサン」とします。

(注2) 環境科学部環境政策・計画学科、工学部および人間文化学部生活栄養学科の面接開始・終了時刻は、受験者数によっては変更する場合があります。

(注3) 工学部材料科学科、人間文化学部地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、国際コミュニケーション学科は、面接時に志望する学科のアドミッション・ポリシーに添った口頭試問を実施します。

(学力検査の内容)

環境科学部 (環境生態学科、生物資源管理学科) ……総合問題(120分)

※総合問題には、英語力を問う設問を含みます。

(環境政策・計画学科) ……英語(60分)

工学部 (材料科学科・機械システム工学科・電子システム工学科) ……英語(60分)

人間文化学部 (地域文化学科、人間関係学科) ……総合問題(120分)

※総合問題には、英語を課しません。

(国際コミュニケーション学科) ……総合問題(120分)

※総合問題には、英語力を問う設問を含みます。

(生活デザイン学科) ……デッサン(120分)

※デッサンは、形の観察力、表現力、構成力を鉛筆描写によって表現する。

(生活栄養学科) ……英語(60分)

(2) 試験会場

滋賀県立大学(〒522-8533 彦根市八坂町 2500) <案内図は裏表紙中面に記載>

J R 南彦根駅西口からバスで県立大学行き約 15 分

3 出願手続

(1) 受付期間 平成30年11月1日(木)から11月8日(木)まで(必着)

出願にあたっては、所定の出願書類提出用封筒[I票]を用い、書留速達扱いの郵送に限ります。

なお、出願書類は受付期間最終日必着のため、郵送に掛かる期間を十分考慮のうえ発送してください。

(出願期間後に到着したものは、受理しません。)

(2) 願書提出先

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

滋賀県立大学 入学試験実施本部(管理棟2階教務課)(☎0749-28-8226)

※ 日本に在留していない者で、受験のための在留資格「短期滞在」の取得に日時を要する場合は、事前に上記まで相談してください。

(3) 出願書類

出 願 に 必 要 な 書 類		作 成 方 法
A 3 票	入 学 志 願 票 (原 票) [裏 面] 身 上 調 書	・ 39～43 ページの記入例および記入上の注意を参照のうえ、必要事項を漏れなく記入してください。 ・ 受験票・写真票の写真貼付欄には縦 4 cm× 3 cmの写真 (正面上半身無帽、背景なし、出願前 3 か月以内に撮影したもの) を、はがれないようにしっかりと貼付してください。
C 票	住 所 票	
D 票	受 験 票	
E 票	写 真 票	
F 票	入 学 検 定 料 振 込 確 認 票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書を貼付してください。
	卒 業 (修 了) 証 明 書 お よ び 成 績 証 明 書 等	外国において、日本の高等学校に相当する学校の卒業 (修了) 証明書または卒業 (修了) 見込証明書、および在学期間すべての成績証明書が必要です。
	日 本 留 学 試 験 の 受 験 票	平成 30 年度第 1 回日本留学試験の受験票の写し、または平成 30 年度第 2 回日本留学試験の受験票の写しが必要です。
	※成績を利用する回(第1回または第2回)については、本学での試験実施後、平成30年12月25日(火)までに本学入学試験実施本部に申告してください。(出願時に申告する必要はありません。) 申告に必要な書類は、成績を利用する回の受験票の写しと本学での試験時に配付する本学所定の書類です。なお、具体的な申告の方法などについては、本学での試験時に指示します。	
	住 民 票 の 写 し	出願前 3 ヶ月以内に市区町村長が発行したもので、在留資格を明記したものがが必要です。(原本を提出すること)
	パ ス ポ ー ト カ ラ ー コ ピ ー	パスポートの顔写真、氏名部分が含まれるページをカラーコピーしたものがが必要です。なお、試験当日は必ずパスポートを所持してください。
H 票	受 験 票 返 送 用 封 筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、82 円分の郵便切手を貼付してください。 ※日本に在留していない者にあつては、航空便書状料金 (20 g) に速達料金を加えた「国際返信用切手券」を同封してください。
I 票	出 願 書 類 提 出 用 封 筒	「出願区分」欄の「5. 私費外国人留学生特別入試」に○印をし、必要事項を記入してください。
入学検定料 17,000 円 ・ 入学検定料は、本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、出願受付期間の 3 週間前から出願受付最終日までの間に、指定の金融機関に振り込んでください。なお、A T M (現金自動預け払い機) は利用できません。 ・ 振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。 ※日本に在留していない者にあつては、払込方法を指示しますので、事前に E-mail または郵便で問い合わせください。 問い合わせ先 〒 522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 滋賀県立大学教務課入試室 ☎ 0749-28-8217・8243 E-mail: nyushi@office.usp.ac.jp		

(注) A 3 票～I 票の各書類は、本冊子に添付されています。

(注) 英語以外の外国語で書かれた書類については、日本語訳もしくは英語訳を添付してください。

(4) 障がい等がある入学志願者との事前相談

障がい等のある入学志願者で、受験上および修学上の配慮を希望する場合は、できるだけ早い時期（平成30年10月12日（金）まで）に滋賀県立大学教務課 入試室（☎0749-28-8217・8243、E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp）まで連絡し、相談してください。

出願締切後に、不慮の事故等のため、受験上および就学上の配慮を希望する場合は、速やかに上記連絡先まで連絡し、相談してください。

4 合格発表

発表期日 平成31年1月22日（火）午前9時

滋賀県立大学構内に掲示板を設け、合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者に合格通知書を郵送します。

また、合格者の受験番号を大学ホームページ（<http://www.usp.ac.jp/>）に掲載します。

なお、電話等による問い合わせには応じません。

5 その他

出願手続上、受験上の注意事項については、「推薦入試」の項（19～20ページ）を参照してください。

なお、試験当日は、本学の受験票のほかに「日本留学試験受験票」を必ず持参してください。

また、日本留学試験の第1回、第2回の両方を受験した者は両方の受験票を持参してください。

別表3 日本留学試験の利用教科・科目一覧

		利 用 教 科 ・ 科 目						出題言語	英語科目の対応
		日本語	総合科目	数 学	理 科				
					物理	化学	生物		
環境科学部	環境生態学科	○		コース自由選択	2科目自由選択			自由選択	個別学力試験(総合問題に英語問題を入れる。)
	環境政策・計画学科	○	○	コース自由選択	2科目自由選択			日本語	個別学力試験の中で英語を課す。
	環境建築デザイン学科	○		コース2	2科目自由選択			日本語	英語は課さない。
	生物資源管理学科	○	○	コース自由選択	2科目自由選択			自由選択	個別学力試験の中で英語を課す。
工学部	材料科学科	○		コース2	○	○		日本語	個別学力試験の中で英語を課す。
	機械システム工学科	○		コース2	○	○		日本語	個別学力試験の中で英語を課す。
	電子システム工学科	○		コース2	○	○		日本語	個別学力試験の中で英語を課す。
人間文化学部	地域文化学科	○	○					日本語	英語は課さない。
	生活デザイン学科	○	○	コース自由選択				日本語	英語は課さない。
	生活栄養学科	○				○	○	日本語	個別学力試験の中で英語を課す。
	人間関係学科	○	○					日本語	英語は課さない。
	国際コミュニケーション学科	○	○					日本語	個別学力試験(総合問題に英語問題を入れる。)

注意) 環境政策・計画学科、生物資源管理学科では、総合科目か理科のどちらかを選択すること。

Ⅵ 入学手続、初年度納付金等

1 入学手続

(1) 入学届の提出

帰国子女特別入試（総合問題を課す学部・学科のみ）において合格通知書を受けた者は、所定の入学届を平成30年12月21日（金）までに提出しなければなりません。また、私費外国人留学生特別入試において合格通知書を受けた者は、所定の入学届を平成31年2月1日（金）までに提出しなければなりません。

なお、期間内に入学届を提出しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。

(2) 入学手続期間

推薦入試

総合問題または面接のみを課す学部・学科	平成30年12月12日（水）から12月18日（火）まで（必着）
大学入試センター試験を課す学部・学科	平成31年2月14日（木）から2月19日（火）まで（必着）

帰国子女特別入試	}	平成31年3月8日（金）から3月15日（金）まで（必着）
私費外国人留学生特別入試		

(3) 入学手続方法

① 入学手続に必要な書類は、推薦入試合格者および帰国子女特別入試（大学入試センター試験を課す学部学科）合格者に対しては、合格通知書に同封して直接本人あてに郵送します。

また、帰国子女特別入試（総合問題を課す学部・学科）および私費外国人留学生特別入試に合格して入学届を提出した者に対しては、平成31年2月下旬に入学手続に必要な書類を直接本人あてに郵送します。

② 郵送による場合は必ず書留速達扱いとし、入学手続期間最終日必着とします。また、直接持参する場合の受付時間は、土・日、祝祭日および3月12日を除く平日の午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。

(4) 提出書類等

- ① 誓約書（本学所定の様式）
- ② 保証書（本学所定の様式）
- ③ 卒業証明書または修了証明書（入学手続時に卒業見込みまたは修了見込みの者は、別途指定する日までに提出）
- ④ 入学料相当額を金融機関に振込後、「入学料振込金確認受領証明書」を提出
- ⑤ 写真1枚（直近3か月以内に撮影したもので、カラー、正面上半身無帽、背景なし、縦4cm×横3cmのもの）
- ⑥ 滋賀県内に住所を有する者のみ住民票の写し

(5) 入学手続先

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

滋賀県立大学 入学試験実施本部（管理棟2階教務課）（☎ 0749-28-8226）

(6) 入学手続上の注意事項

- ① 必要な書類がすべてそろっていない場合には受け付けないので、書類の提出の際には十分確認してください。また、入学手続期間を過ぎて到着したものは受け付けないので、郵送の場合には所要日数を十分に考慮して発送してください。
- ② 入学手続期間内に入学手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものとして取り

扱います。(推薦入試の場合は 20 ページ「(3)その他の注意事項①」を参照のこと。)

- ③ 一度受付をした入学書類および入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。

(7) その他

- ① 12 月 12 日から 12 月 18 日までの期間に推薦入試の入学手続きを完了した者に対しては、入学までに取り組むべき課題を課します。

2 初年度納付金

(1) 入学料

入学手續の際には、下記の金額の入学料を所定の用紙により指定金融機関へ振り込みください。

- ① 滋賀県内の者 282,000 円

- ② 上記以外の者 423,000 円

(注) 滋賀県内の者とは、次の各号のいずれかに該当する方をいいます。

ア 入学の日の 1 年前 (平成 30 年 4 月 1 日) から引き続き滋賀県内に住所を有する者

イ 入学の日の 1 年前 (平成 30 年 4 月 1 日) から引き続き滋賀県内に配偶者または 1 親等の親族 (生計を一にする者に限る。) が住所を有する者

(2) 授業料

- ① 年 額 535,800 円 (平成 30 年度の額であり、改定されることがあります。)

なお、在学中に授業料が改定された場合には、改定後の授業料が適用されます。

- ② 納付方法 前期 (納付期限 4 月 27 日)、後期 (同 10 月 27 日) の 2 回に分け、原則として口座引落により納入してください (口座振替日または納入期限が金融機関の休業日にあたる場合は、その翌営業日となります)。

(3) 後援会費

入学手續の際に、後援会費 (4 年間分 50,000 円) を所定の振込用紙により指定金融機関へ振り込みください。

(4) 同窓会費

入学手續の際に、同窓会費 (終身会費 10,000 円) を所定の振込用紙により指定金融機関へ振り込みください。

3 その他

(1) 奨学金

- ① 日本学生支援機構が貸与する奨学金

奨学生の決定は、学内で出願者の資格審査後、該当者を推薦し日本学生支援機構が決定します。

区 分	貸 与 月 額	
第一種奨学金 (無利子)	自 宅 通 学 者	30,000 円又は 45,000 円から選択
	自 宅 以 外 通 学 者	30,000 円又は 51,000 円から選択
第二種奨学金 (有利子)	30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円、120,000 円から選択	

※他に入学時特別増額貸与奨学金 (10 万円、20 万円、30 万円、40 万円、50 万円) があります。

- ② 上記の他にも、地方公共団体等の奨学金制度があります。

(2) 授業料の減免

家庭の経済事情または不測の災害などのため、授業料の納付が著しく困難である学生には、授業料の減免制度があります。

(3) 下宿・アパート

下宿・アパート・ワンルームマンションについては、合格者に「下宿情報」を送付します。

(4) 学生教育研究災害傷害保険

通学途中を含む正課の授業や課外活動中の事故等による傷害補償を行うもので、全員加入です。保険料は、後援会から一括して支払われます。

(5) 留学費用

一定の条件のもとに海外への留学者を経済的に支援する制度があります。

(6) 国の教育ローン（日本政策金融公庫）

入学料、授業料、教科書代、アパートの敷金・家賃など、入学時や在学時に必要となる資金を融資する公的な制度として、「国の教育ローン」があります。融資金額は、学生・生徒1人につき350万円以内、返済期間は15年以内です。

詳しくは、「国の教育ローン」コールセンター（0570－008656(ナビダイヤル)）まで問い合わせてください。

VII 出願書類の記入例および記入上の注意

(原 票)

A1票

平成31年度 滋賀県立大学入学志願票[推薦入試]

志望する学部・学科を記入してください。

受験番号

※

何も記入しないでください。

志望学部 学 科	環 境 科 学部 環境政策・計画 学科
推 薦 区 分	推薦入試A ・ 推薦入試B ・ 推薦入試C

※志願する推薦区分を○で囲んでください。出願後は、理由のいかんを問わず、推薦区分の変更はできません。

合格通知書の送付や緊急時の連絡ができる住所、電話番号を記入してください。

フリガナ	ケンダイ タロウ	性 別		生年月日	平成12年 4 月 2 日
志 願 者 氏 名	県大 太郎	男・女			
住 所	〒 522 - 0057	電話番号	(0749)	12 - 3456	
	都 府	滋 賀 道 県	彦根市八坂町2500番地	大学アパート102号	

呼び出しの場合は番号の末尾に(呼)と記入してください。

出身学校	学 校 名	学 科	課 程
	琵琶湖高等学校	普 通 科	全日制 定時制 通信制

志望理由

(注) 1 ※印欄は記入しないこと。

2 「志望理由」欄は本学志望学科を志願する理由を具体的に記入してください。

(電算処理票) B票

ID	0	1	0	
----	---	---	---	--

何も記入しないでください。

濁点、半濁点は一文字分を使用し、姓・名は一文字空け、左から詰めて記入してください。

1 2 志望学部学科	環境科学部	工学部	人間文化学部	人間看護学科
	11 環境生態学科	21 材料科学科	30 地域文化学科	51 人間看護学科
	12 環境政策・計画学科	22 機械システム工学科	44 生活デザイン学科	
	13 環境建築デザイン学科	23 電子システム工学科	45 生活栄養学科	
	14 生物資源管理学科		46 人間関係学科	
			47 国際コミュニケーション学科	

※記入不要

0			9			
---	--	--	---	--	--	--

志願者(カナ)	ケンタ・イ・タロウ															
氏名(漢字)	性 県 大								名 太 郎							
性別・生年月日	1 1:男 2:女								年号 4 3:昭和 4:平成 1 2 0 4 0 2							
電話番号	0 7 4 9 - 1 2 - 3 4 5 6															
出身学校等	学校コード 5 2 6 0 0 A															
	学校名 琵琶湖高等学校															
卒業(見込) 修了(見込) 年 月	年号 4 4:平成 3 1 0 3 卒業(見込) 修了(見込) 年 月															
	1 課程名 1:全日制 3:通信制 2:定時制 4:その他															
※記入不要 (大学使用欄)	国 地 公 数 理 外															

生年月日は和暦で記入してください。生年月日の数字が1ケタの場合「04」のように前に「0」を記入してください。

次の学部・学科を志望する者は、
大学入試センターへの登録を基に、
受験を予定する全ての科目の全て
にマーク(☐)してください。

(大学入試センター試験を利用する学部・学科)

環境科学部
環境政策・計画学科
環境建築デザイン学科
工学部
材料科学科
機械システム工学科
電子システム工学科
人間文化学部
生活デザイン学科
生活栄養学科

国語		地 理 歴 史、公 民 (第1解答科目)								地 理 歴 史、公 民 (第2解答科目)								外 国 語					
国	英 界 史	世 界 史	日 本 史	日 本 史	地 理	地 理	現 代 社	倫 理・ 政治・ 経 済	倫 理・ 政治・ 経 済	世 界 史	世 界 史	日 本 史	日 本 史	地 理	地 理	現 代 社	倫 理・ 政治・ 経 済	倫 理・ 政治・ 経 済	英・ 米・ ロシア 史	ド イ ツ	フ ラ ン ス	中 国	韓 国
類	A	B	A	B	A	B	合	理	理	A	B	A	B	A	B	合	理	理	類	部	部	部	部

理科①		数学①		数学②				理科② (第1解答科目)		理科② (第2解答科目)	
物	化	数	数	工	簿	情	物	化	生	物	化
理	学	学	学	業	記・	報	理	地	地	理	地
基	基	学	学	理	会	係	学	学	学	学	学
礎	礎	I・	I・	基	計	基	理	学	学	学	学
礎	礎	A	B	礎	礎	礎	学	学	学	学	学

(例) 国語、地理B、英語、
数Ⅰ・A、数Ⅱ・B、
物理(第1解答)、
化学(第2解答)の
受験を予定する場合

地理歴史・公民および理科②について、1科目受験者は第1解答科目欄に受験予定の科目をマークすること。
2科目受験者は、第1解答科目欄に最初の時間に解答を予定する科目を、第2解答科目欄に次の時間に解答を
予定する科目をマークしてください。

- 40 –

標準文字例

電算処理票に記入する際には、下記の文字例を参照の上、1文字ずつ、はっきりと記入してください。特に線が接しているか離れているか、線の端が折れているか、出っ張りがあるか等にご注意してください。

(1) 数字文字例

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 英字文字例

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
W	X	Y	Z	—						

(3) カナ文字例

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ
シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ
ヲ	ン	。	〃							

(4) 次の文字は、誤読を起こしやすいので、特に注意すること。

- ① 数字の「0」と、英字の「D」「O」、カナの「ロ」
- ② 数字の「1」と、英字の「I」、カナの「ノ」
- ③ 数字の「4」と、カナの「チ」
- ④ 数字の「7」「9」と、カナの「ク」「フ」
- ⑤ 英字の「D」と「P」
- ⑥ 英字の「J」「T」と、カナの「ナ」「メ」
- ⑦ カナの「シ」と「ツ」

C 票

住所票（合格通知等送付用）

合格通知等	〒 522-0057 (受験番号※) 滋賀県彦根市八坂町2500番地
送付先	大学アパート102号 県大太郎様
志望学科	環境政策・計画 学科

入学志願票と同じ住所を正確に記入してください。

何も記入しないでください。

合格通知等	〒 522-0057 (受験番号※) 滋賀県彦根市八坂町2500番地
送付先	大学アパート102号 県大太郎様
志望学科	環境政策・計画 学科

(注) この住所票はシール式になっていますので、はがれないように取り扱ってください。
2枚とも記入してください。
※印欄は記入しないでください。

平成31年度滋賀県立大学入学試験受験票（特別入試）

D 票

何も記入しないで
ください。

受験番号	※		
志望 学部学科	環境科 学部 環境政策・計画 学科		
フリカ`ナ	ケンダイ タロウ		
氏 名	県大 太郎		
性 別	男 ・ 女		
生年月日	平成12 年 4 月 2 日		
注意事項	1 本受験票は、試験当日必ず携帯してください。 2 本受験票は、合格後入学手続きに必要なので紛失しないでください 3 ※印欄は記入しないでください。		

写真貼付欄
注 意
上半身、脱帽、正面
向きで最近3か月
以内に撮影した
もの
縦 4cm×横 3cm

貼付する写真はカラー、モノクロのどちらでもかまいません。写真の裏面に氏名、志望学部学科を記入し、はがれないようにしっかりと貼り付けてください。

平成31年度滋賀県立大学入学試験写真票（特別入試）

E 票

何も記入しないで
ください。

受験番号	※		
志望 学部学科	環境科 学部 環境政策・計画 学科		
フリカ`ナ	ケンダイ タロウ		
氏 名	県大 太郎		
性 別	男 ・ 女		
生年月日	平成12 年 4 月 2 日		
注意事項	1 写真は受験票（D票）と同じものを貼付してください 2 ※印欄は記入しないでください。		

写真貼付欄
注 意
上半身、脱帽、正面
向きで最近3か月
以内に撮影した
もの
縦 4cm×横 3cm

受験票（D票）と同じ写真を貼付してください。

平成31年度滋賀県立大学入学検定料振込確認票（特別入試）

F 票

何も記入しないで
ください。

受験番号	※		
志望 学部学科	環境科 学部 環境政策・計画 学科		
この枠内に振込後の「入学検定料振込金受領証明書」を貼り付けてください。			

※印欄は記入しないでください。